

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 3 月 15 日作成)

小委員会名	環境アセスメント小委員会		主 査 名：堤 純一郎 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (環境設計運営委員会)		委員長名：加藤信介 主 査 名：三浦昌生
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2007 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境影響評価に関する資料の収集</li> <li>・各県の技術指針が定める具体的なアセスメントの方法を収集。実例の中から建築や都市計画に深く関わるものを抽出して、その学術的な背景を検討。</li> </ul>		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有		
	瀬田恵之(飛島建設), 堤 純一郎(琉球大学)(主査), 成田健一(日本工業大学), 三浦昌生(芝浦工業大学), 渡辺浩文(東北工業大学)		
設置 WG (WG 名:目的)			
2006 年度予算	130,000 円	ホームページ公開の有無：有 <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s2/assessmentWG/framepage.htm">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s2/assessmentWG/framepage.htm</a>	

項 目	自己評価
委員会開催数	0 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境影響評価に関する資料を収集した。</li> <li>2. 各県の技術指針が定める具体的なアセスメントの方法を収集した。</li> </ol>
委員会活動の問題点 ・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日程調整などの不備から小委員会を開催できなかった。</li> <li>2. 委員の個別活動に終始し、小委員会としての体系的な活動ができなかった。</li> </ol>

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

\* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

## 2006 年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>D</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>主査の多忙により、小委員会開催を通じた満足のある活動ができなかった。したがって委員の個別活動に終わり反省している。</p> <p>小委員会の設置は社会的な要請に応えたものであったが、それに相応する成果を出すことなく 2006 年度で小委員会を廃止するに至ったのは主査の責任である。</p> <p>将来、態勢を整えてこのテーマに取り組みたい。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。